※設計ＢＭとボーリングＢＭの高低確認（現場打合せ）

68,000

ボーリング調査孔 No2
（BM−0.03m）

BM（一等水準点）
±0

34,000

ボーリング調査孔 No3
（BM+0.03m）

15,500

2,000

ボーリング調査孔 No1
（BM−0.15m）

ボーリング柱状図

JACIC 様式Ge201

ボーリングNo. 1

シートNo.

調査名　平成13年度第122－B号宮崎大宮高校体育館改築工事等に伴う地盤調査業務委託

事業・工事名

ボーリング名	NO.1	調査位置	宮崎市神宮東			北緯	
発注機関	宮崎県営繕課			調査期間	平成 13年 8月 6日 ～ 平成 13年 8月10日	東経	
調査業者名	有限会社 中村工業開発 0985-22-3916	主任技師	田中寛久	現場代理人	渕上慶介	コア鑑定者	田中寛久	ボーリング責任者	田中寛久
孔口標高	AP 7.703m	角度	180° 上 下 0° 90°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	吉田式０５Ｄ	ハンマー落下用具	コーンブーリー
総掘進長	25.00m								エンジン	ヤンマーＮＳ９０	ポンプ	吉田式ＳＰ４０

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cm毎の打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
1	7.20	0.50	0.50		盛土(BB)	灰			砂質角礫混入径φ10～30mm程度、上部木根混入	2/2 4.40	1.15	1	1	3	5/30	5							
	6.10	1.10	1.60		ローム(Lm)	暗茶		中位	全般にシラス、ボラ混入														
2	5.70	0.40	2.00		砂質粘土(Sc)	茶			上部ローム混り、下部シラス、赤ホヤ混り、粘着性大		1.45 2.15	4	4	5	13/30	13							
3	4.20	1.50	3.50		細粒砂(S)	暗灰		中位	粒度不均一 GL－2.60mまでローム混り 以深シラス、ボラ混入 部分的に粘性土を挟む		2.45 3.15	3	4	4	11/30	11							
4									粗粒砂主体 礫径φ2～10mm程度 GL－3.80mより軽石多量混入 GL－4.80mより中粒砂主体 GL－6.50mよりシルトを若干挟む 含水大		3.45 4.15	5	7	7	19/30	19							
5											4.45 5.15	4	4	5	13/30	13							
6											5.45 6.15	4	5	6	15/30	15							
7											6.45 7.15	8	8	8	24/30	24							
8	-1.09	5.30	8.80		礫混り砂(S-G)	暗灰		中位			7.45 8.15	7	8	9	24/30	24							
9	-1.99	0.90	9.70		砂礫(GI)	灰	密な		マトリックスは粗粒砂 礫径φ2～10mm程度 含水大、全般に軽石点在		8.45 9.15	9	11	11	31/30	31							
10							密な		上部シラス混入 GL－11.00m～11.50mにシルト混り貝ガラ片混入 全般に軽石混入 軽石径φ2～5mm程度 GL－13.00m～14.70mにシルトを挟む 礫混入 礫径φ5～10mm程度点在		9.45 10.15	9	12	12	33/30	33							
11											10.45 11.15	5	6	7	18/30	18							
12											11.45 12.15	8	8	9	25/30	25							
13											12.45 13.15	4	3	3	10/30	10							
14											13.45 14.15	4	5	5	14/30	14							
15	-7.79	5.80	15.50		細粒砂(S)	暗灰		中位			14.45 15.15	10	7	5	22/30	22							
16									全般にシルトと砂の互層 GL－16.50～17.00mにシラスを挟む		15.45 16.15	4	5	5	14/30	14							
17								中位			16.45 17.15	4	4	6	14/30	14							
18								緩い	砂質は粗粒砂 全般に軽石、貝ガラ混入		17.45 18.15	2	2	3	7/30	7							
19											18.45 19.15	2	4	6	12/30	12							
20								中位			19.45 20.15	3	5	5	13/30	13							
21	-13.29	5.50	21.00		シルト混り砂(S-M)	暗灰					20.45 21.15	7	6	9	22/30	22							
22								中位	全般に礫、軽石、シラス混入 礫径φ2～10mm程度		21.45 22.15	12	12	13	37/30	37							
23								密な	GL－24.00mより軽石帯状に挟む		22.45 23.15	10	12	10	32/30	32							
24								中位			23.45 24.15	6	7	12	25/30	25							
25	-17.29	4.00	25.00		粗粒砂(S)	暗灰			含水中		24.45 25.15	7	10	11	28/30	28							
											25.45												

ボーリング柱状図

JACIC 様式Ge201

調査名　平成13年度第122－B号宮崎大宮高校体育館改築工事等に伴う地盤調査業務委託

事業・工事名

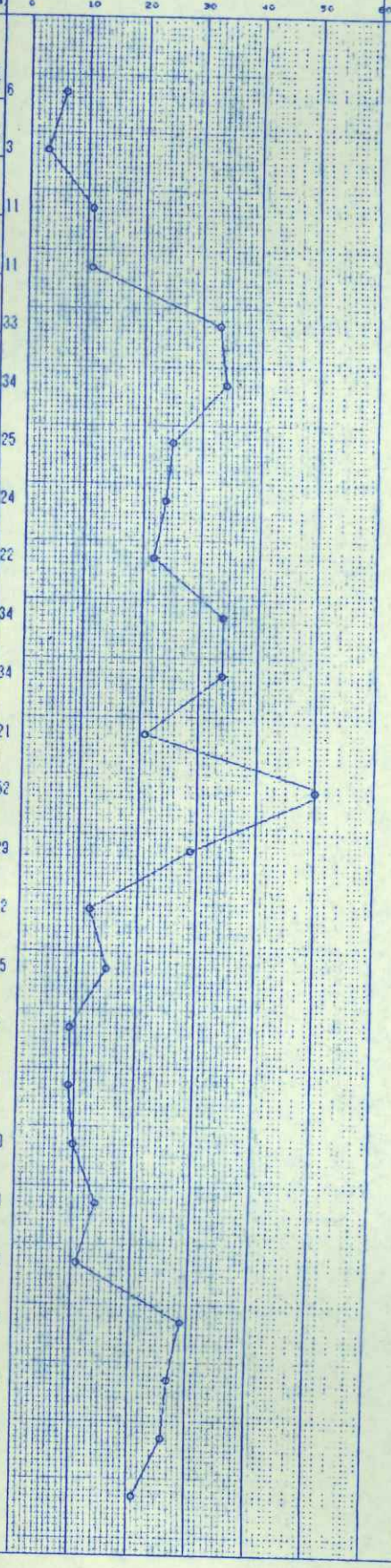
ボーリングNo. 2

シートNo.

ボーリング名	NO.2	調査位置	宮崎市神宮東			北緯	
発注機関	宮崎県営繕課			調査期間	平成 13年 7月30日 ～ 平成 13年 8月 2日	東経	
調査業者名	有限会社 中村工業開発 0985-22-3916	主任技師	田中寛久	現場代理人	篠原和孝	コア鑑定者 田中寛久	ボーリング責任者 田中寛久
孔口標高	AP 7.623m	角度	180° 上 下 0° 90°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90°
総掘進長	25.00m	使用機種	試錐機	吉田式05D	ハンマー落下用具	コーンプーリー	
			エンジン	ヤンマーNS90	ポンプ	吉田式SP40	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	7.47	0.35	0.35		盛土(BB)	茶灰			シラス主体
	7.17	0.30	0.65		ローム(Lm)	黒茶			ボラ混り
1	5.92	1.25	1.90		砂質粘土(CLS)	茶		中位	0.65～1.50m付近にボラ、火山岩砕、腐植物混入、1.50～1.90m付近にシラス、浮石混入
2							非常に緩い		2.50～4.00m付近に礫混入 径φ2～15mm程度
3									
4							中位		4.60～4.90m付近にシルト、砂の互層状 粒度不均一
5	2.82	3.10	5.00		シルト質砂(SM)	灰			
6	1.42	1.40	6.40		礫混り砂(S-G)	茶褐	密な		礫径φ2～8mm 5.90m付近に若干ボラを混入
7	0.22	1.20	7.60		砂礫(GI)	灰	中位		礫径2～20mm程度
8	-0.27	0.50	8.10		シラス(Si)	灰			微粒質、粒度均一
9							中位		全体的に貝ガラ混入
10									
11							密な		
12							中位		12.50m付近シラス主体粗粒質
13							非常に密な		12.95m付近に礫混入 φ15～60mm程度
14									14.50m付近に微粒質の砂が混じる シラス混りの砂
15									15.40m付近より貝ガラ多量混入 浮石、シラス混入
16							中位		16.25～16.50m付近にシルトをシーム状に挟む 全体的にシラス混入
17							緩い		16.65m付近に礫を挟む、径φ50mm程度 腐植物、シラス、浮石多量混入
18	-10.17	9.90	18.00		細粒砂(S)	暗灰	緩い		腐植物、浮石、貝ガラ全体的に混入
19									20.00～20.50m付近にシルト、砂の互層状 ガラス質混入
20									21.00～21.50m付近に処々シルトを挟む
21	-13.67	3.50	21.50		シルト混り砂(S-M)	暗灰	中位		
22									全体的にシラス、浮石混り 21.50～22.00m付近にシルトを処々に挟む
23									23.00～24.00m付近に浮石を薄状に挟む 径φ5～10mm程度
24							中位		
25	-17.17	3.50	25.00		粗粒砂(S)	暗灰			

孔内水位(m)／測定月日	深度 (m)	10cm毎の打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
2.35	1.15	2/11	2/9	2	6/30	6
	1.45					
	2.15	1/12	1/8	1	3/30	3
	2.45					
	3.15	2	4	5	11/30	11
	3.45					
	4.15	3	3	5	11/30	11
	4.45					
	5.15	9	11	13	33/30	33
	5.45					
	6.15	8	12	14	34/30	34
	6.45					
	7.15	8	8	9	25/30	25
	7.45					
	8.15	7	7	10	24/30	24
	8.45					
	9.15	8	7	9	22/30	22
	9.45					
	10.15	7	11	16	34/30	34
	10.45					
	11.15	5	12	17	34/30	34
	11.45					
	12.15	6	5	10	21/30	21
	12.45					
	13.15	12	17	23	52/30	52
	13.45					
	14.15	8	9	12	29/30	29
	14.45					
	15.15	4	4	4	12/30	12
	15.45					
	16.15	5	4	6	15/30	15
	16.45					
	17.15	3	3/12	3/8	9/30	9
	17.45					
	18.15	2	3	4	9/30	9
	18.45					
	19.15	2	3	5	10/30	10
	19.45					
	20.15	2	5	7	14/30	14
	20.45					
	21.15	3	3	5	11/30	11
	21.45					
	22.15	7	10	12	29/30	29
	22.45					
	23.15	7	10	10	27/30	27
	23.45					
	24.15	7	8	11	26/30	26
	24.45					
	25.15	5	8	8	21/30	21
	25.45					



原位置試験　深度(m)　試験名および結果

試料採取　深度(m)　試料番号　採取方法

室内試験一　掘進月日

ボーリング柱状図

JACIC様式Ge201

調査名　平成13年度第122－B号宮崎大宮高校体育館改築工事等に伴う地盤調査業務委託

ボーリングNo. 3

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	NO.3	調査位置	宮崎市神宮東					北緯	
発注機関	宮崎県営繕課			調査期間	平成 13年 8月 6日 ～ 平成 13年 8月 9日			東経	
調査業者名	有限会社 中村工業開発 0985-22-3916	主任技師	田中寛久	現場代理人	篠原和孝	コア鑑定者	田中寛久	ボーリング責任者	田中寛久
孔口標高	AP 7.883m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機 吉田式05D / ハンマー落下用具 コーンブーリー
掘進長	25.00m								エンジン ヤンマーNS90 / ポンプ 吉田式SP40

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対粗度	記事
7.48	0.40	0.40		盛土(BB)	灰			シラス主体
6.88	0.60	1.00		ローム(Lm)	暗茶			ボラ混り
5.28	1.60	2.60		砂質粘土 (CLS)	茶		中位 軟らかい	1.00~1.50m付近にボラ、ローム混り 全体的にシラス主体
4.03	1.25	3.85		細粒砂 (S)	暗灰	中位		2.95m付近に浮石、礫混り、3.60m付近に砂礫部分を挟む 下部にシルト混り砂
3.73	0.30	4.15		シルト(M)	暗灰			3.90m付近に砂質分を挟む
-5.46	9.20	13.35		礫混り砂 (S-G)	暗灰	中位 密な	非常に密な	粗粒砂主体 6.60~6.80m付近、7.50~7.90m付近に砂礫部分を挟む 礫径φ2~20mm程度
-9.96	4.50	17.85		細粒砂 (S)	暗灰	中位		15.75m付近にシルトを挟む 17.00~17.85m シラス、浮石、貝ガラを全体的に混入
-13.61	3.65	21.70		砂質シルト (MS)	暗灰		硬い 非常に硬い	19.00~20.50m付近に浮石、シラス混入 浮石径φ2~10mm程度 処々に腐植物混入
-17.11	3.30	25.00		粗粒砂 (S)	暗灰	中位 密な		全体的に浮石、ガラス質混入 処々にシルトを挟む 22.00~22.50m付近に浮石多量混入 23.40m付近に浮石を多く挟む 径φ2~5mm程度 24.90m付近に礫混入 礫径φ20mm程度

孔内水位(m)／測定月日	深度 (m)	標準貫入試験 10cm毎の打撃回数 0~10	10~20	20~30	打撃回数／貫入量(cm)	N値	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進 月日
2.35	1.15	2	3	3	8/30	8							
	1.45												
	2.15	1/14	1/7	2/13	4/34	3.5							
	2.49												
	3.15	3/12	3/9	4/9	10/30	10							
	3.45												
	4.15	3	6	8	17/30	17							
	4.45												
	5.15	7	6	9	22/30	22							
	5.45												
	6.15	3	3	4	10/30	10							
	6.45												
	7.15	7	8	11	26/30	26							
	7.45												
	8.15	7	9	12	28/30	28							
	8.45												
	9.15	8	10	11	29/30	29							
	9.45												
	10.15	9	10	11	30/30	30							
	10.45												
	11.15	10	12	15	37/30	37							
	11.45												
	12.15	10	13	15	38/30	38							
	12.45												
	13.15	13	37/10		50/20	75							
	13.35												
	14.15	5	7	9	21/30	21							
	14.45												
	15.15	7	8	10	25/30	25							
	15.45												
	16.15	6	6	10	22/30	22							
	16.45												
	17.15	2/9	3/11	5	10/30	10							
	17.45												
	18.15	2/9	4/11	4	10/30	10							
	18.45												
	19.15	3	3	4	10/30	10							
	19.45												
	20.15	3/11	3/9	5	11/30	11							
	20.45												
	21.15	4	6	7	17/30	17							
	21.45												
	22.15	5	7	11	23/30	23							
	22.45												
	23.15	7	8	15	30/30	30							
	23.45												
	24.15	9	11	14	34/30	34							
	24.45												
	25.15	9	11	9	29/30	29							
	25.45												